

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
総合研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究代表者 西村 行秀 岩手医科大学リハビリテーション医学講座 教授

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿って手引書の作成をおこなうこととした。手引書作成の執筆、編集、発刊をおこなうこととした。
(倫理面への配慮)
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章は高齢者の身体機能を高める方法についてとし中項目を10項、小項目を36項目とし、第2章を高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）とし中項目を2項、小項目を6項とした。第3章は介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についてとし、中項目を6項とした。また、それぞれの項を理解しやすくするための図表も多く取り入れた。最終的に100ページ弱の手引書を作成した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、最終年度である本年度に手引書の発刊まで到達し、予定を完遂することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
Shinohara H, Mikami Y, Kuroda R, Asaeda M, Kawasaki T, Kouda K, Nishimura Y, Ohkawa H, Uenishi H, Shimokawa T, Mikami Y, Tajima F, Kubo T. Rehabilitation in the long-term care insurance domain: a scoping review. Health Econ Rev. 2022 Dec 1;12(1):59.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者 西山 一成 岩手医科大学リハビリテーション医学講座 助教

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿って手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目8項の執筆を担当することとなった。
(倫理面への配慮)
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章、高齢者の身体機能を高める方法についての、バランス訓練、巧緻性訓練、高次脳機能障害に対するリハビリテーション手技の執筆を担当し、第3章、介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についての、高齢者の全身状態を診るときのポイント、脳血管疾患患者に対する留意事項、運動器疾患患者に対する留意事項、循環器疾患患者に対する留意事項、呼吸器疾患患者に対する留意事項、サルコペニア・フ

レイルのある患者に対する留意事項の執筆を担当した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者 久保 俊一 京都府立医科大学医学部 特任教授

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿って手引書の作成をおこなうこととした。手引書作成の編集をおこなうこととした。

(倫理面への配慮)

京都府立医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章は高齢者の身体機能を高める方法についてとし中項目を10項、小項目を36項目とし、第2章を高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）とし中項目を2項、小項目を6項とした。第3章は介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についてとし、中項目を6項とした。また、それぞれの項を理解しやすくするための図表も多く取り入れた。最終的に100ページ弱の手引書をした編集した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、最終年度である本年度に手引書の発刊まで到達し、予定を完遂することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

Shinohara H, Mikami Y, Kuroda R, Asaeda M, Kawasaki T, Kouda K, Nishimura Y, Ohkawa H, Uenishi H, Shimokawa T, Mikami Y, Tajima F, Kubo T. Rehabilitation in the long-term care insurance domain: a scoping review. Health Econ Rev. 2022 Dec 1;12(1):59.

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者 村上 英恵 岩手医科大学リハビリテーション医学講座 助教

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿って手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目2項の執筆を担当することとなった。
(倫理面への配慮)
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章、高齢者の身体機能を高める方法についての、関節可動域の拡大と摂食嚥下機能訓練の執筆を担当した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者 高橋 史朗 岩手医科大学教養教育センター 教授

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿って手引書の作成をおこなうこととした。手引書作成の編集をおこなうこととした。

(倫理面への配慮)

岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章は高齢者の身体機能を高める方法についてとし中項目を10項、小項目を36項目とし、第2章を高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）とし中項目を2項、小項目を6項とした。第3章は介護領域の高齢者における疾患別にみたリハビリテーションの留意事項についてとし、中項目を6項とした。また、それぞれの項を理解しやすくするための図表も多く取り入れた。最終的に100ページ弱の手引書をした編集した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、最終年度である本年度に手引書の発刊まで到達し、予定を完遂することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者 坪井 宏幸 | 岩手医科大学医学部 研究員

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿って手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目4項の執筆を担当することとなった。
(倫理面への配慮)
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章、高齢者の身体機能を高める方法についての、筋力増強、持久力（心肺機能）強化、歩行の執筆を担当し、第2章、高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）についての、入浴の執筆を担当した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者 中嶋 英一 | 岩手医科大学医学部 研究員

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿い手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目2項の執筆を担当することとなった。
(倫理面への配慮)
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章、高齢者の身体機能を高める方法についての、離床の執筆を担当し、第2章、高齢者の意欲を高める方法（心理的サポート）についての、レクリエーションの執筆を担当した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーションの適応等についての研究

研究分担者 酒井 孝文 宝塚医療大学保健医療学部・教授

研究要旨 介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するためには高齢者の診察にあたるリハビリテーション科医、各疾患領域の医師や医師以外の医療職種が適切にリハビリテーションを提供できるようにする必要がある。本研究で介護保険制度のもとで適切なリハビリテーションが提供できるように手引書を作成する。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

(分担研究報告書の場合は、省略)

A. 研究目的

本研究の主目的は介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することである。

B. 研究方法

2021年度までに遂行し手引書作成のための大項目3章、中項目合計18項、小項目合計50項を抽出した。これらの項目に沿って手引書の作成をおこなうこととした。この中で中項目2項の執筆を担当することとなった。
(倫理面への配慮)
岩手医科大学の倫理審査の承認を得た。

C. 研究結果

第1章、高齢者の身体機能を高める方法についての、関節可動域の拡大、ADL（日常生活動作）訓練の執筆を担当した。

D. 考察

昨今のCOVID-19関連による様々な問題等で研究の進行が若干遅れも生じたが、担当部分の執筆を遂行することができた。

E. 結論

介護領域におけるリハビリテーションを効果的に実施するための手引書を作成することができた。

F. 健康危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし